

ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

夏

Summer 2012

巻頭言 京都大学総長 松本 紘 氏

事務局長就任のご挨拶

自主企画シンポジウム

「若者よ、世界へ飛び出そう！」 - 明石 康 氏

企画イベント / 催事一覧



巻頭言

国立京都国際会館が、日本で最初の国際会議場として産声をあげたのは、1966年5月21日。奇しくもこの日は、リンドバーグが、ニューヨーク・パリ間の大西洋横断飛行に成功し、よく知られた「翼よあれが巴里の灯だ」との名言が誕生した日でもあります。

国立京都国際会館ではこの開館以来、一万件を超える会議・イベントが開催され、京都議定書という歴史的な文書の誕生の地となったことはいかに及ばず、日本の国際会議のまさに檜舞台としてその役割をこれまで十分に果たしてきました。京都大学も研究、教育、社会貢献の様々な局面で、国立京都国際会館を大いに活用させていただいているところです。

私自身も助手の頃、国際地球電磁気・超高層物理学協会 (IAGA) が1973年にこの会館で開催され、初めての国際学会を経験しました。その後も何度かこの会館を訪れましたが、その時



▲ IAGA第2回学術総会に参加する松本氏(右から2人目)

の思い出が色あせることはありません。それから幾星霜、国際会議の規模が巨大化し、京都の国際交流の場として海外の研究者からも絶賛されてきたこの施設ですら、現在では手狭となってしまった印象を受けるに至っています。

IT技術の進歩によって情報は光速で世界を駆け巡っています。グローバル化は今後ますます進展することでしょう。しかし、そうなったとしても、人が場所を共有し、フェイス・ツウ・フェイスで交流することの重要性は減ることはないでしょう。リンドパークの世紀の挑戦を濫觴に飛行機は世界を駆け巡り、ますます世界は小さくなりました。一方で、地球の資源が有限であることから生じる生存の危機がより深刻化しています。これからのグローバルリーダーはともに膝を突き合わせ、叡智をしばる必要がますます増えるものと予想されます。すなわち、今後国際会議は増えることこそあれ、その数を減じるとは到底思えません。

私はこれからの京都が文化を育む世界都市として、その輝きを増すためには、1200年にわたって蓄積してきた学術や文芸を世界に発信する舞台をさらに増やすことや既存の舞台の充実が不可欠と考えています。先に述べた印象からもその先頭を走る国立京都国際会議場を一層充実させていくことにまず手をつけるべきことではないかと思えます。関係者各位には、国立京都国際会館の充実を切に願うとともに、これからも京都の情報発信の拠点である国立京都国際会館へのますますのご支援をお願いしたいと思います。

京都大学総長 松本 紘

松本 紘 - プロフィール

1942年生。奈良県出身。専門は宇宙電波科学、宇宙プラズマ物理学。65年京都大学電子工学科卒業。73年工学博士。生存圏研究所長、理事・副学長などを経て2008年10月総長就任。学外では、地球電磁気・地球惑星圏学会会長、国際電波科学連合会長、内閣府関係の委員等を歴任。ガガーリンメダル(ロシア)、紫綬褒章、Booker Gold Medal (USA) など国内外の賞を受賞。多数の学術論文のほか、主な著編書に「宇宙開拓とコンピュータ」(共立出版)、SPS白書(URSI)、「宇宙太陽光発電所」(ディスカヴァー・トゥエンティワン)など。現在、(公財)国立京都国際会館理事も務める。



事務局長就任のご挨拶

このたび、前任者大槻泰の後任として、6月15日付で国立京都国際会館の事務局長に就任させていただきました。わが国を代表する国際会議場として皆様の信頼と期待に沿うよう、まことに微力でございますが、事務局長としての職責を果たすべく全力を注いで参りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 国立京都国際会館
事務局長

かさい むねひさ
葛西 宗久

プロフィール

昭和24年6月 京都市生まれ
昭和49年4月 京都市職員奉職
平成20年4月 京都市公営企業管理者交通局長



京都国際会館企画イベント

2012年国際会館自主企画シンポジウム「若者よ、世界に飛び出そう！」第2回

デザイナー・プロデューサー 山本寛齋氏 講演会

2012年5月26日

国立京都国際会館では、世界で活躍する方々を講師に迎え、「若者よ、世界へ飛び出そう！」と題し自主企画シンポジウムを開催しています。第2回目の今回、デザイナーの山本寛齋氏を講師に迎えました。寛齋氏は手懸けられた数々のスペクタクルのDVD上映も交え、夢を持つことが生きる上で一番大切と100人を超える聴衆に熱く語られました。スケールの雄大さ、迫力、情熱があふれる講演会でした。詳細は次号(秋号)に掲載します。



2012.5.27 京都新聞 朝刊

2012年国際会館自主企画シンポジウム「若者よ、世界に飛び出そう！」第3回

地球環境行動会議 事務総局長
(元参議院議員環境庁長官) 広中 和歌子氏 講演会

2012年9月22日



地球環境行動会議 事務総局長
(元参議院議員環境庁長官)

広中 和歌子氏

(場所) 国立京都国際会館 Room D

2012年9月22日(土) 14:00~16:00

(内容) 講演会 他

参加申し込み等、詳細につきましては7月中旬以降、当館のホームページでご確認ください。

乾杯の夕べ ~ ロシアへの想いを馳せて ~

2012年7月27日~28日



会場：国立京都国際会館 庭園(雨天の場合は館内)

時間：17時30分(開場)~20時30分

会費：前売り制 大人3,800円 小人(小学生以下)1,500円

※生ビール・ジュース飲み放題で、お楽しみ弁当・抽選券付です。

ロシアの紹介・展示、ロシアグッズ等の販売もあります。

両日とも打ち上げ花火をお楽しみいただけます! お問い合わせ先 キョードーインフォメーション 06-7732-8888 (10:00~19:00)



平成24年度 宝松庵茶会

第53回(平成24年春)宝松庵茶会



4月30日(祝・月)に第53回春の宝松庵茶会が開催され、本席の「宝松庵」は裏千家今日庵が、Room157の副席では淡交会京都南支部が担当されました。全国各地から約600名のお客様にお集まりいただきましたこと、心より御礼申し上げます。本年秋に第54回宝松庵茶会が開催予定です。

2012年国際会館自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」

明石 康氏 講演会

2012年4月14日 国際会館 Room A

最近の日本の若者は内向き志向になり、海外へ留学を志す学生の数が年々著しく低下してきています。10数年前の半数以下とも言われています。そのような現状を憂い、当館では元国連事務次長 明石康氏を講師に迎え、自主企画シンポジウム第1回「若者よ、世界へ飛び出そう！」を、開催しました。

〔明石 康氏 略歴〕

1931年秋田県生まれ。東京大学卒、ヴァージニア大学大学院修了。57年国連入り。広報や軍縮担当の国連事務次長、カンボジアや旧ユーゴスラビア担当の事務総長特別代表を歴任。97年に国連を退官。現在、(公財)国際文化会館理事長、(公財)国立京都国際会館評議員などを務める。



『若者よ、世界へ飛び出そう！』という元気のいい題のもとに、お話しするようにと依頼を受けました。私はこの国立京都国際会館がとても好きでありまして、国連時代にも第1回目と第2回目の軍縮会議を、開かせていただいたのを、懐かしく思い出します。

1980年代に、日本はアメリカに次ぐ世界第2の経済大国まで上りつめました。1990年前後にバブルがはじけ、その後約20年間低成長で、政治も混迷しはじめ、約20年間の低迷の時代を経験してきています。昨年3月11日には東日本大震災があり、それに引き続く福島原発の事故と、明るい材料は探してもないわけです。わが国は、世界第2の経済大国としての地位をお隣の中国に譲り、アジアでのわが国の1人あたりの所得は群を抜いて第1位だった時代が続きましたけど、数年前からはシンガポールにすでに追い抜かれています。

皆さんが異口同音に言うのは、この国が全体として、どうも内向きになってきていると。内向きどころか、内ごもりになってきているんじゃないかという指摘があり、私もそうでないかという気がしております。理由の1つは、この日本という国が、心地よい国であるということではないかと思うのです。どうもこの国のなかにいたほうが楽である、気持ち良い、快適であるという気持ちを持っておられる方が、結構いると思います。

グローバル化が進行しているのに、どうして日本人がそんなに、国際語になった英語に弱いのかということをお考えすると、日本人の完璧主義、完璧な英語を自分は書けないし、しゃべれないが故にしゃべらないという、日本人のシャイさの背後にある完璧主義があると思います。日本は明治維新以来、資源のない国でありながら、結局人間というものの、人的資源に投資して、現在まで来た国だと思っています。よくマスコミにおいて、日本の国際的なプレゼンスがどうも弱まってきているんじゃないか、イメージも弱くなってきているんじゃないかといわれます。国際的なプレゼンスというのは極めて漠然とした意味なので、具体的に、日本の国際的な競争力が経済の面ではどうなっているのか考えてみますと、いろんな品物の国際競争力が落ちつつあり、日本のなかで、所謂「ガラパゴス現象」が起きています。日本の製品は、日本の消費者のためには格好の高度の機能を持った商品であるけれども、日本以

外の市場で通用しない、やや独りよがりの洗練された商品が作られつつある。これは日本の人材についても、適用されるんじゃないかということですね。国連の事務次長格の仕事をして4年ほどして帰ってこられた赤阪さんは、国連の広報担当の事務次長もやった人ですけども、国連のトップのポストに、日本人が最近とみに少なくなってきたと言うんです。その原因には、日本で要求される人材と、国連のような国際機関で必要とされる人材との間に違いがあるという点を赤阪さんも指摘しています。専門職以上の仕事に就くためには、修士号が必要なんです。英語かフランス語、言葉の能力の点で日本のトップの方々はどうも弱いと。国連は、何年かの実務経験がない人は欲しがらないんですね。日本の雇用慣行と国連ないしは国際機関の雇用慣行との間にはかなりの違いがあるわけです。

それでは日本人は未来永劫、国際的な人的進出が不可能なんでしょうか。

グローバル人材の要件のうち一番大事なのは、自分自身がしっかりしていること、主体性を持っていること、いろいろ困難な難しい問題に向かい合っていくチャレンジ精神とか、柔軟性を持っていることが最も大事だと思います。18歳人口は110万人から120万人、毎年出てくるわけです。この若者たちのうち10%くらいを、できれば1年ないしはそれ以上、海外へ留学に出そうじゃないかという柱が1つ立てられました。それから2番目には、今の大学教育、特に大学入試にいろいろ問題があるんじゃないか。本当に、その受験する人の力、特に能力、素質を見抜くような試験をやっているのか。入試を本当の力を試す入試に改善するのが2番目の柱。それから最後の3番目の柱なんですけど、企業や団体による採用活動の改革をしると。これは、ギャップイヤーとイギリスで呼んでいる制度の適用なんですけども、いろいろな経験をし、海外にも行き、大学を出てから3年くらいはハンディを付けることなく新卒として扱ってほしいんじゃないかということです。どうも日本的な高等教育というのは必ずしもそういう激しい国際競争力の場で、生き残れるような人材の養成をしていないという面があるのではないかと思います。

インターネットとかスマートフォンとか、そういう新型兵器をたくさん駆使して瞬時に得られるパーチャ

ルな世界と実際にそこに入り込む生活とは完全に100%同じではありません。実際の生活、実際の世界というのは、無限の広がりや変化のある世界だと思うんですね。いろいろな行動、イベント、人の活動が行われていて、それらの織り出す世界というのはそう簡単に、要約のできない豊かな、多様性のあるものだと思います。私は、国連に奉職することになったのは、1957年の2月でした。いろんな国のいろんな教育制度の人が、一緒になって仕事をしていました。私に与えられた最初の仕事は、ハンガリー問題について国連事務総長報告書を、作成することでした。グローバル化の時代というのは、いろいろ違ったところから人が集まっても、必要な時は同じ目的に向かって仕事ができる、協力ができる、そういう能力を持った人を必要としているし、チームワークは国境を越えても、成り立ち得るということではないかと思っています。文化と文化の違いはどこにでもあるわけで、日本を本当に知るためには、日本にずっと住み続けたのでは駄目だと思うんです。一度日本から外に出て日本を見つめなおす、眺めなおす、それから自分が訪ねていった国と日本とを比較してみる、そういう比較的な視点を

失わないことが、これからは大事だと思います。最後に言いたいのは、文化の違い、民族の違い、そういうものを包含しているのが、この21世紀初頭の世界なので、一番大事なことは、違いを喜ぶことではないかということです。初めから文化の間には、発想の違い、美的感覚の違いがあると思って付き合うと、結構、お互いに相通じること、共通性をたくさん発見するんじゃないかと思っています。国連の仕事で、いろいろな民族紛争にも関係しました。世界の国々、特に隣国の場合に、お互いの欠陥がどうしても目に付きがちでありますけれども、お互いの良さから学ぶということがとても大事ではないかと思っています。

若者が世界に飛び出すにあたって、リスクとか危険とか、そういうものばかりを考えずに、正面切って率直に自らの目で世界を見るという観点を失わないことが、何よりも大事であろうということを申し上げて、今日のお話にかえさせていただきたいと思っています。

第2部 パネルディスカッション (コーディネーター：明石 康氏)



■ パネリスト



立脇 奈美氏
立命館大学 国際関係学部



手塚 沙織氏
同志社大学大学院 グローバル社会研究専攻



加藤 友麻氏
京都産業大学 外国語学部

明石 / 3人の大学生より私の言ったことに対する反対意見とか、違う意見が出てくることを期待しております。

立脇 / 2年間アメリカン大学に留学して、毎日、毎週、10ページ以上書くリサーチレポートというのは当たり前で、本をたくさん読まないといけない状況でした。語学って自然に耳から入ってくるので、自然に上達するんです。こういうことをしたいから、こういう行動に出るんだというチャレンジ精神だったり、こういう思いがあるからこういうことを伝えたいっていうコミュニケーションに対する粘り強さだったり、そっちが絶対大切だと思っています。

手塚 / 大学院の経験からですが、あなたの英語力では大学院のこのクラスは難しいとアドバイザーに言われた言葉が、TOEFLの点数が高かったにもかかわらず自分の英語が全然通じなかったということに関して、すごくショックを受けて泣きながらキャンパスを帰ったのを覚えています。先生に名前を覚えていただくほど努力もしたし、リサーチペーパーを何十枚書くのも当たり前前の話です。発言をしなれば、君は出席していることにはならないからねと言われたんです。母国語が英語である方たちと話すなかで、英語が突われてしまうんじゃないかとか、意見が間違っているのではな

いかとか思って、話すことをすごくためらっていたんです。アメリカ人の方たちが読んでいないような文献も読んで一歩努力しました。努力を積み重ねていくと、先生が名前を覚えてくれるんですね。呼ばれたときの感動は今でも忘れないです。一番大切なことは、自信を持つということなんです。日本語訛りの英語でも構わないんです。意見をはっきり言えること。第一条件として、相手の言っていることをよく聞くこと。限界点を超えていくという意味で、自信を持つということが非常に大切です。聞くということ、話すということ、この2点は非常に大切だと思います。

加藤 / 7月末よりアイスランド大学に留学することになっています。何故アイスランド大学かということ、バイリンガルを研究するゼミに入っているんですが、アイスランドはアイスランド語と英語の2カ国語をほぼ全員がしゃべれます。日本語教員としてのコースを取っているのですが、日本語を外国語として違う角度から見るということがおもしろいです。

明石 / 日本が恵まれていることから、外にやっぱり行きたがらない人が出てくると思うんですけど、はじめの躊躇心を克服してしまえば、基本的な人間関係の大事さは外で経験したほうがいいと思います。人間的な感情の豊かさ、優しさを、むしろ外国人は持っている



▲ パネルディスカッション

こともあるんじゃないかと思います。立脇さんは語学力は、日本で考えるほど問題ではないと言われたのは、その通りだと思います。若い人たちが最近内向き志向であることについて、(最近の調査の) 46%の若い人が留学したいという希望を漏らしていたというのが本当であれば素晴らしいと思うんです。全体として留学生がやや減っているのは事実です。日本の企業は4年で大学を出た人を採用したがる傾向があると思うんです。異口同音に、もっと自分に自信を持たなくてはいけない、外国語を、多少下手でもどしどし話すこと、それが大事だということ言ってくれたのは、非常にうれしく思います。日本人は自己反省が強すぎるんです。

質問者A氏 / 国際社会に出ていく上で、リーダーシップをとる考えが必要になってくると思うんですが。

明石 / 私が本の中で、グッドリスナーであることが大事だということを言っていると、パネリストの方々が指摘されました。相手の意見というのは無数にあります。正確に理解するのは、簡単なことではないです。グッドリスナーになると自分の立ち位置がわかっていくことが多いと言っているんです。

立脇 / リーダーシップが必要と言われているのに疑問を持っていて、グッドリスナーという面においては、日本人はすごく相手の意見を聞くことができると思っていますので、日本人のよさを生かせる国際人になったらいいのかなと思っています。この発言はどうなんだろうって、疑問に思うことってよくあるんです。発言できるからいいってわけでもなく、相手の言ったことをちゃんと自分なりに理解して、自分の考えをまとめて、アウトプットするっていうのがすごく大切だと思っています。

手塚 / 2人の意見に賛成で、リーダーを支える人間がやっぱりいるんです。

加藤 / 日本人というのは、意見を言わないというか、国民性だと思っているので、それでいいんじゃないかなと思います。

明石 / 国民性というのは、変わるものだと思っています。20代30代の人、新人類と言われるように、我々の世代から見るとかなり変わっていると思います。韓国人の英語力が素晴らしくなっているのは、伝統的にディベートをする習慣があるからだと聞いています。

質問者B氏 / 日本の常識は世界の非常識、世界の常識は日本の非常識、とはどんな場面で遭遇されましたか。

立脇 / 本当にカルチャーショックを受けたのが、(日本の)接客業のよさ。

手塚 / カリフォルニア州はですね、There is no

common sense. とわれまして、人の常識、自分の常識が、人の非常識になることはたくさんあります。

質問者C氏 / 日本人の評価、海外で聞く日本人の評価を聞いてみたいです。

手塚 / 自分たちに対して悲観的すぎるって言うんです。なんでそんなに不満なの、何故自分達のことネガティブに言うのって言うんです。日本人に対する評価は、ものすごく高いんです。固定概念と言われるかもしれないが、働き者だし、きれい好きだし、金払いがいい。日本人の人に対する気遣いっていうのは、高く評価されています。帰ってきたら、マスメディアが日本人のこと叩きすぎているので、悲観的にならざるを得ないような報道の仕方です。

立脇 / 世界の立ち位置がどうだと、最近言われていますが、ポップカルチャーなど文化面ですごく興味がある子はまだまだたくさんいるんです。日本の関心度っていうのは、昔の経済面とは変わってきているのかなあとと思いますが、評価というのは素晴らしいものだと思います。

質問者D氏 / 世界に飛び出すメリットと、一人ひとりが国際感覚を身につけなければいけないと思った何か一言を、お答えいただければと思います。

加藤 / 日本語を教えることを勉強して、日本のことを全然知らないというのはどうかと思い、海外に出たら知らないことも知っていくんじゃないかと。

手塚 / 海外に出る最大のメリットは、日本のよさがわかるということです。自分の国のよさ、ありがたみを知って、文化を学んでいくということが大切だと思っています。

立脇 / 視野がとても広がるんです。自分の国のよさがわかるんです。

明石 / 3人の学生が、どうして外に目を向けなくてはいけないのか、外に出てみる必要があるのかということ言ってくれました。日本という国も、1つの文化として外から見直してみることによってより理解できるし、他と比較することで視野が広がるということ言ってくれたと思います。3人が指摘しなかった点で、日本経済を世界経済の一部として見て、如何にしてこれを活性化するか、これに競争力をつけるかという視点を欠かしてはいけないということが1つ。環境問題についても、その解決には日本と世界を切り離すことができない。最後には平和の問題です。安全保障の観点からも地球は1つになっている、そういう観点を見失うことは許されないと思います。

基調講演をやらせていただいた私としても、快い時間を過ごすことができたことを、心から感謝申し上げたいと思います。【了】



▲ 歓談される登壇者

開催されたイベント

第85回日本整形外科学会学術総会

2012年5月17日～20日



▲ 久保会長

5月17日～20日の4日間、久保俊一会長(京都府立医科大学大学院運動器機能再生外科学教授)のもと、第85回日本整形外科学会学術総会が当館とグランドプリンスホテル京都を会場として開催されました。本学会では「伝統と創意 未来に向けた整形外科の飛躍」を開催テーマに、海外を含む全国から延べ10,000名以上の参加者を集め、活発な議論が行われました。

当館のメインホールには、学会のテーマを象徴するものとして、京都建仁寺所蔵の国宝風神雷神図屏風(俵屋宗達作)、メトロポリタン美術館所蔵の八橋図屏風(尾形光琳作)が展示され、各講演の合間には多くの方がその迫力を間近で楽しんでおられました。

また、駐車場には2棟の特設会場が建設され、参加者受付が行われると共に、ポスターセッション、企業展示が盛大に行われました。

国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会

2012年6月4日～8日



6月4日～8日までの5日間、国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会が開催されました。国際大ダム会議(ICOLD)は1928年に創建された国際団体であり、ダムの構造基準、管理基準等の技術面において世界の指導的な役割を果たしています。現在95カ国が加盟しており、日本は1931年から参加している最も古い加盟国の1つです。

今回は、1984年の東京開催以来28年振りに日本で開催された年次例会と、日本では初めての開催となる3年に1度の大会が合わせて行われました。水の諸課題に関する討論と地球温暖化への対応に向け、世界各地より1500名のダム・河川関係者の参加を集め、活発な議論と意見交換が行われました。

開催予定イベント

第9回 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム

2012年10月7日～9日

2012年10月7日～9日の3日間、科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)の第9回年次総会が開催されます。世界100カ国から約1,000人のトップが集まる科学技術版「ダボス会議」と位置づけられています。

STSフォーラムは、ノーベル賞受賞者や科学者・研究者、各国科学技術担当大臣をはじめ、先端技術開発をリードする民間企業の代表、各国大学学長、メディアの代表が参加し、科学技術と人間の未来に関する課題をそれぞれの立場を越えて話し合う事を目的に、2004年に創立されました。以後、毎年当館で年次総会が開催されています。

今回からはこれまで行われてきた大学学長会議、科学技術担当大臣会議等の他、各国研究機関の長を集めた研究機関長会議が世界で初めて開催されることが予定されており、より広い見地から徹底した議論が交わされる予定です。

第66回 日本臨床眼科学会

2012年10月25日～28日

第66回日本臨床眼科学会が来る10月25日～28日、当館とグランドプリンスホテル京都を会場として開催されます。今回は、吉村長久先生(京都大学大学院医学研究科眼科学教授)を学会長として、「確かな眼」をメインテーマに、約6,000名の参加を予定されています。このテーマは、昨年の東日本大震災後、復興の時を迎え、これから新しい眼科医療を作り出す気概を持って行動する必要のある眼科医が「確かな眼」を持つことは何よりも大切なことであるという思いを込めたものです。

今回の学会では、日本国内のみならず、世界各国からも著名な研究者が参集され、活発な議論、意見交換が行われる予定です。

第9回 国際糖尿病連合西太平洋地区会議 第4回AASD学術会議

2012年11月24日～27日

2012年11月24日(土)～27日(火)の4日間、第9回国際糖尿病連合西太平洋地区会議及び第4回アジア糖尿病学会学術集会(英語名称: 9th IDF-WPR Congress / 4th AASD Scientific Meeting)が、関西電力病院の清野裕先生と中部ろうさい病院の堀田鏡先生を学会長として合同開催されます。今回は「西太平洋地区における糖尿病の多様性の探求; 科学的根拠に基づく糖尿病の教育とケア」をテーマに、東アジア、東南アジア、その他西太平洋地区の医療者や研究者約4,000名が参加される予定です。糖尿病患者が激増し、深刻化している今日、糖尿病患者数が最多であるアジア西太平洋地区において、糖尿病管理への新たな展望が開かれる事を目指し、臨床ならびに基礎研究、教育、治療について議論されます。

会期	催事	参加者数
6月29日～7月1日	第63回日本東洋医学会学術総会	2,500人
6月29日～7月1日	第27回JCCP全国大会	2,000人
7月5日～7日	第48回日本小児循環器学会総会・学術集会	1,800人
7月8日	第8回子育て支援講座	1,800人
7月8日	第11回地球研フォーラム	280人
7月8日	エキスパートナース・フォーラム2012	400人
7月11日～12日	第10回技術講演会	450人
7月12日	平成24年度京都府PTA指導者中央研修会	1,400人
7月14日～15日	第18回日本看護診断学会学術集会	2,500人
7月27日～28日	乾杯の夕べ2012～ロシアへの想いを馳せて～	3,500人
7月29日～8月2日	第15回国際分子植物微生物相互作用学会	1,000人
8月3日～4日	一般社団法人日本磁気共鳴医学会第34回MR基礎講座	280人
8月4日～6日	小林豊子きもの学院 第30期 教授講座	100人
8月4日～5日	第2回小児科専門医・専門医取得のためのインテンシブコース	480人
8月8日	平成24年度全日本珠算選手権大会	350人
8月20日	第10回全国高専テクノフォーラム	500人
8月25日	第60回日本PTA全国研究大会京都大会	8,000人
8月26日～29日	第14回国際組織細胞化学会議	600人
8月26日	2012年度全国公文進度上位者のつどい in 京都	3,500人
8月26日	平成24年度日本外科学会外科専門医予備試験	1,200人
8月27日～28日	第21回バイオイメージング学会学術集会	250人
8月31日～9月2日	第1回国際アロマセラピー会議・第15回日本アロマセラピー学会学術総会	1,000人
9月6日～8日	第40回日本磁気共鳴医学会大会	1,400人
9月8日	レッドブル・サークル・オブ・バランス2012	1,800人
9月15日～21日	第19回国際質量分析会議	2,000人
9月17日	第29回京都府高等学校総合文化祭 茶道部門	200人
9月23日	Live in MIROSS 2012	2,000人
9月25日～27日	2012年国際固体素子・材料コンファレンス (SSDM2012)	1,000人
9月29日～30日	第17回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	3,000人
10月2日～3日	第43回日本看護学会 看護管理	2,300人
10月4日～6日	国際膵癌シンポジウム2012・イン・京都	550人
10月7日～9日	第9回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	900人
10月11日～12日	第57回日本聴覚医学会総会・学術講演会	1,000人
10月16日	第14回商工会女性部全国大会 in 京都	4,000人
10月19日～21日	第74回日本血液学会学術集会	5,000人
10月25日～28日	第66回日本臨床眼科学会	6,000人
10月29日～11月1日	第8回SPIEアジア・パシフィックリモートセンシング会議	300人
10月31日	第63回敬神婦人大会京都大会	1,000人

編集後記

碩学 明石康先生を迎え自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」を開催しました。相手の意見を理解して、自分の考えを出していくクリティカル・シンキングの大切さを述べる立脇さん。悲観的すぎる日本人を糾弾し、日本の未来を、日本人を非常に高く評価していると述べる手塚さん。アイスランドで日本を見極めたいと述べる加藤さん。安全保障の観点からも地球は1つになっていると述べる明石氏。白熱した討論で大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。夏号が出来上がりました。ご一読下さい。（企画・広報課）

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
電話 075-705-1234 (FAX: 075-705-1223)
E-mail com@icckyo.or.jp
URL http://www.icckyo.or.jp/
発行日 2012年7月10日